

I 第6週の発生動向 (2013/2/4~2013/2/10)

- インフルエンザについては、患者報告数は減少しましたが、むつ、上十三保健所管内では第3週から、八戸保健所管内では第5週から**警報**が、東地方-青森市保健所管内では第3週から、弘前、五所川原保健所管内では第4週から、**注意報**が継続しています。(詳細については、(V県内インフルエンザ情報)をご覧ください)
- 感染性胃腸炎については、患者報告数 242 人で、横ばい状態が続いています。

II 第6週五類感染症定点把握

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県感染症発生動向調査 TOP ページをご覧ください。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週比)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		数	人/定点	数	人/定点
小児科 +内科 (85) インフルエンザ	301	23.15	272	18.13	318	22.7	208	29.71	372	41.3	206	34.3	1,677	26.2	-485	14	14.0	287	23.9
小児科 (74) RSウイルス感染症	3	0.4	1	0.1			3	0.6					7	0.2	-7			3	0.4
(75) 咽頭結膜熱	1	0.1	7	0.8									8	0.2	1			1	0.1
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	1.4	12	1.3	5	0.6	2	0.4	11	1.8			41	1.0	-9			11	1.4
(77) 感染性胃腸炎	89	11.1	44	4.9	40	4.4	15	3.0	34	5.7	20	5.0	242	5.9	10			89	11.1
(78) 水痘	5	0.6	9	1.0	13	1.4	3	0.6	4	0.7			34	0.8	3			5	0.6
(79) 手足口病					1	0.1							1	0.0	-2				
(80) 伝染性紅斑							1	0.2	1	0.2			2	0.0	1				
(81) 突発性発疹	4	0.5	1	0.1	2	0.2	1	0.2	3	0.5	1	0.3	12	0.3	-6			4	0.5
(82) 百日咳															-1				
(83) ヘルパンギーナ															0				
(84) 流行性耳下腺炎	3	0.4	5	0.6									8	0.2	-12			3	0.4
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															-1				
(87) 流行性角結膜炎	1	0.5	1	0.3	4	2.0	1	1.0					7	0.6	2			1	0.5
基幹 (92) クラミジア肺炎															0				
(93) 細菌性髄膜炎															0				
(95) マイコプラズマ肺炎			1	1.0	2	2.0						4	4.0	7	1.2	-7			
(96) 無菌性髄膜炎															0				

は警報、は注意報。「空欄」:患者発生無し。

III 全数把握疾患(掲載数は最新情報)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 青森市1人、弘前2人、上十三1人(2013年計:36人)
- (15) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 青森市1人(2013年計:3人)

IV 病原体検出情報 ()内は、検査材料及び検体採取日、患者数です。

- ・インフルエンザ患者29名(咽頭ぬぐい液、鼻汁、1/16~1/23)・・・インフルエンザウイルスA H3 亜型
: 弘前(15)、八戸(2)、むつ(12)

感染症の窓

重症熱性血小板減少症候群

(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS)

重症熱性血小板減少症候群は、2009年から中国で発生が報告され、2011年に初めて原因ウイルスが特定された、新しいダニ媒介性の感染症です。

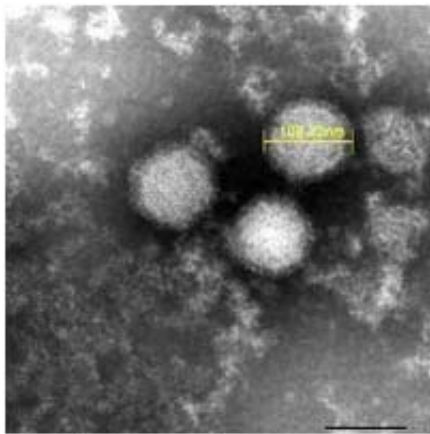
病原体 SFTS ウイルス (図) を保有するマダニ類に咬まれることで感染し、主な症状は発熱と消化器症状で、重症化し死亡する場合があります。マダニ類は、アジア、オセアニアに広く分布し、日本国内でも森林、草地等屋外に生息しています。予防法は、マダニ類に咬まれないようにすることです。

これまでのところ中国の7つの省から発生が報告されており、米国ミズーリ州では、SFTS ウイルスに似たウイルスによる症例が2例報告されています。国内でも2012年秋に3例(山口県、愛媛県、宮崎県)の発生報告がありました。患者には最近の海外渡航歴はなく、既に死亡しています。

厚生労働省では、都道府県を通じて医療機関に対し、「他の感染症又は他の病因が明らかでなく、38度以上の発熱、嘔気・嘔吐・腹痛・下痢・下血のいずれかの消化器症状を呈し、血小板減少、白血球減少及び血清酵素の上昇が見られ、集中治療を要する、若しくは要した、又は死亡した患者」について情報提供を依頼しています。

参考: 厚生労働省ホームページ

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002v5pa.html>)



(100 nm)

図 SFTSウイルス
(国立感染症研究所提供)

V 県内インフルエンザ情報

第6週の患者報告数は、1677人で、迅速診断キットによる型別はA型1615人、B型25人、不明37人でした。

警報レベル開始基準値：30人/定点、警報終息基準値：10人/定点、注意報基準値：10人/定点

(※ 警報注意報基準値は保健所ごとの定点あたり報告数が基準となっています。)

保健所管内別届出人数

(人)

週	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6
保健所名											
東地方						6	3	18	15	22	14
弘前					9	12	59	111	273	369	272
八戸		6	1	10	16	29	118	256	401	451	318
五所川原			2		3	6	18	67	162	192	208
上十三			3	1	3	13	92	304	530	565	372
むつ					4	10	55	234	375	263	206
青森市		1		2	4	20	100	166	227	300	287
合計		7	6	13	39	96	445	1156	1983	2162	1677

A型（迅速診断キットによる型別です）

週	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6
保健所名											
東地方						6	3	18	15	22	14
弘前					9	11	58	111	273	367	272
八戸		6	1	9	16	28	118	254	373	429	302
五所川原			2		3	5	18	67	162	192	208
上十三			3	1	3	13	89	282	502	548	359
むつ					4	10	55	234	375	263	206
青森市				1	3	19	94	157	211	283	254
合計		6	6	11	38	92	435	1123	1911	2104	1615

B型（迅速診断キットによる型別です）

週	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6
保健所名											
東地方											
弘前						1	1			1	
八戸									1		1
五所川原						1					
上十三							1		3	1	
むつ											
青森市		1		1	1		1	2	8	7	24
合計		1		1	1	2	3	2	12	9	25

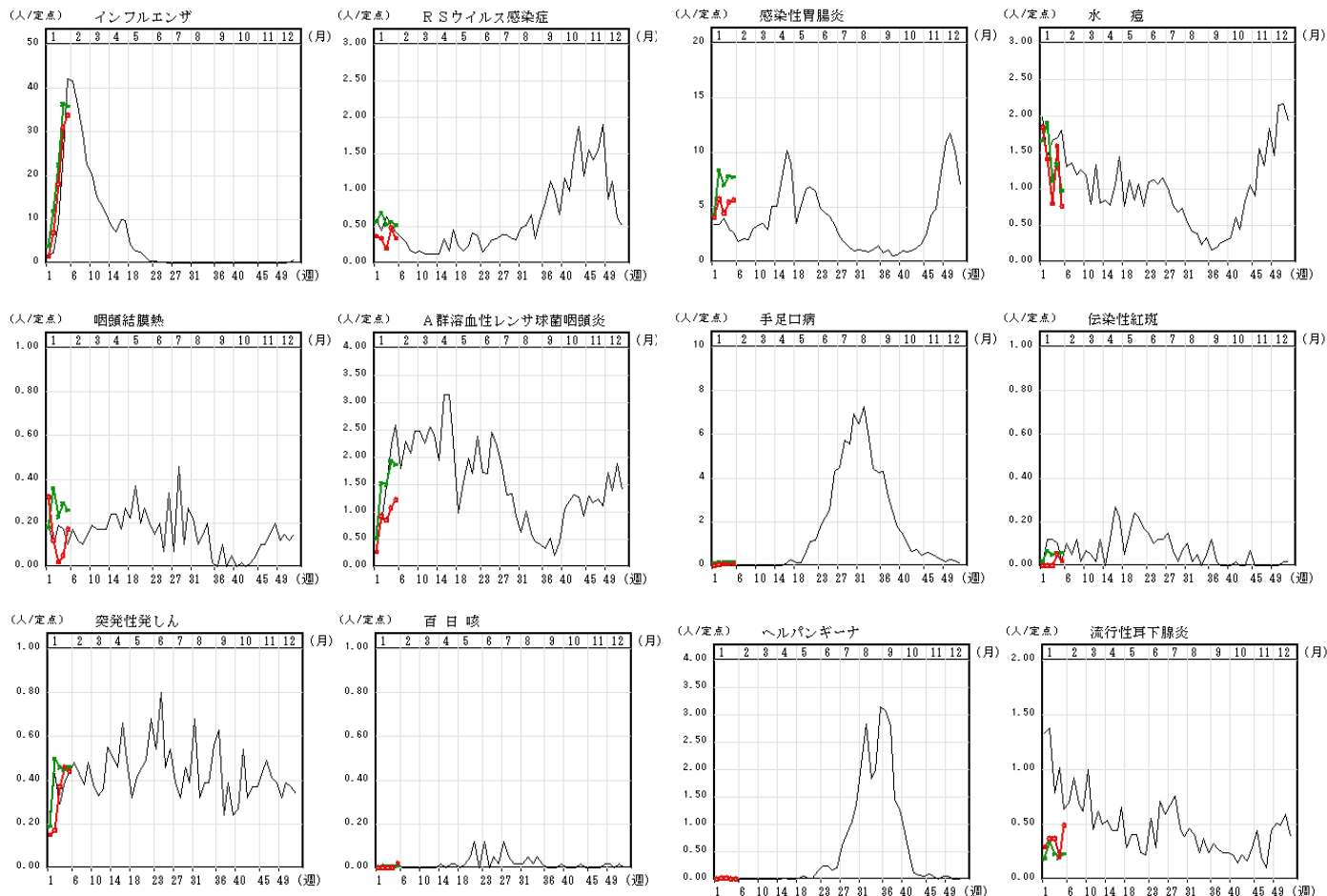
年齢区分別

週	48	49	50	51	52	1	2	3	4	5	6
～5ヶ月						1	2	4	12	8	11
～11ヶ月					1		5	13	16	26	27
1歳			1	4	1	4	16	36	66	71	74
2歳				1	6	1	24	51	76	65	59
3歳				1	1	1	11	41	69	82	76
4歳		3		1	1		22	45	84	98	114
5歳				1			26	45	89	95	79
6歳						5	26	40	71	98	59
7歳						1	8	31	77	71	50
8歳						1	8	27	54	75	47
9歳						1	5	36	84	66	58
10～14歳		2	1	2	1	4	22	183	441	371	249
15～19歳					4	7	27	60	144	163	102
20～29歳				2	9	30	56	97	94	134	94
30～39歳		2	2		6	16	51	116	162	212	125
40～49歳			2			11	44	83	132	155	124
50～59歳					1	8	35	92	121	140	114
60～69歳					3	1	18	69	85	101	85
70～79歳					4	4	25	43	62	61	59
80歳以上				1	1		14	44	44	70	71

IX インフルエンザ・小児科定点把握疾患週別推移

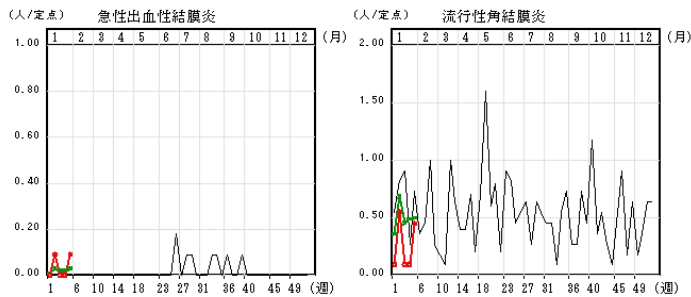
2013年 第5週

グラフの説明 ○—○は2013年青森県、—は2012年青森県、×—×は2013年全国



X 眼科定点把握疾患週別推移

2013年 第5週



XI 基幹定点把握疾患週別推移

2013年 第5週

